

総 論

平成27年度事業計画に基づき、「地域包括ケアシステム」の構築を実現していくため

(1) 中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化

(2) 介護人材確保対策の推進

(3) サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築。

といった基本的な3つの考え方に基づき本城会の重点項目に盛り込み事業を進めて参りました。

しかし平成27年介護報酬改定はマイナス改定(▲2,27)となり、大幅な減収からのスタートととなりました。

介護職員に対しては処遇改善加算Ⅰを算定した結果、前年度より賃金アップを図ることはできましたが、その他の職種は厳しい現状でした。

また施設においては看取り介護、在宅においては健康管理と自立支援を中心に、医療、看護、介護と連携しながら、ご利用者のサポートに努めて参りました。

※詳細は各事業所毎に記載

本年度も法人全職員を対象とした、質の高いケア目指して専門知識、技術の研修会及び医療に関する勉強会を開催しました。不適切なケアの見直しを図りながら、身体拘束、虐待防止に取り組んで参りました。次年度も引き続き取り組んでいきます。

平成27年12月1日よりEPA介護福祉士候補生5名（フィリピン人男子3名、女子2名）を特別養護老人ホームもみじ苑で受け入れました。日本の生活にも馴染み、介護員として勤務しております。

本年度も介護福祉士国家試験に向けての学習支援を行い、6名（ひびきの虹色館）受験し内5名が合格しました。

本城会保育施設ピッコリーノはようやく1月以降、園児が増え始めました。次年度は月極めの園児を確保するために、正規の保育士を雇用し満床(17名)を目指します

透明性ある介護目指しては「苦情解決システム」第三者委員会の委員の方に迅速且つ誠意ある対応と職員指導を頂きました。さらに次年度は質向上に向け第三者委員を含めたりスク委員会を定期的に開催し周知徹底を図ります。

平成27年度重点事項

(1) 「尊厳保持」「自立支援」に向けたサービスの構築

- ① 高齢者の尊厳と自立ある暮らしに視点をおいたアセスメントとケアプランの充実を図る
- ② 個別ケアの構築

- ・医療機関と施設の連携 ・看護と介護の医療連携
- ・認知症ケアへの取り組 ・排泄ケア ・看取り介護
- ・口腔ケア ・栄養マネジメント ・感染症予防対策
- ・身体拘束(行動制限)・虐待ゼロへの取り
- ・安心で安全な介護方法トランスファー
- ・福祉用具を見直すケア(新規)

③ 介護予防、機能訓練の充実化

軽度者への自立支援を観点に維持、改善に努める。

要介護者の悪化予防と維持を図る。

④ 事故防止に向けた定期的な研修体系と苦情解決システムの構築

(2) サービスの質の向上

- ① 尊厳ある安心ケアの提供にあたっては、利用者にとって最適なサービスの組み合わせを多職種協働、医療チーム、家族、地域の力で行なう。
- ② 利用者の視点に立ったサービス情報の提供とケアカンファレンスの充実を図る。
- ③ 専門性ある研修体系の中でケアのスキルアップを図る。

(3) 収益性の改善

- ① 各事業所ごとの利用率の維持を図るための施策と実施。
- ② サービスの質を担保しつつ、削減可能な経費の見直しと実施。

(4) 地域力の展開

- ① 地域における認知症高齢者の「予防」「早期発見・診断」を推進する観点から、支援体制の整備、認知症ケアのマネジメント支援、家族に対する相談等の支援体制の充実化。
- ② ケアマネジャーの専門性の確立と責任、権限の明確化。

(5) 人材育成と資質の確保

- ① 計画的な新人研修・リーダー研修・マネジメント研修。
- ② 社会人としての基本的マナーとして接遇研修とメンタルヘルスの研修
- ③ サービスの質の向上目指した「人事システム」=評価能力向上研修
- ④ 計画的な施設苑内研修の実施。(外部講師派遣・専門職員による講師)
- ⑤ 全国社会福祉協議会・北九州高齢者福祉事業協会開催の研修会への参加
- ⑥ その他各団体等が開催する研修会への参加。施設見学・施設実習の実施
- ⑦ 外国人介護福祉士候補生の国家試験対策に向けた取り組みと実践

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）定員 70名

※平成28年1月～定員74名

平成27年度の月平均在籍（4月～12月）は68人、（1月～3月）72.6人
平均年齢 男性78歳 女性87.6歳 全体平均年齢86.5歳 平均要介護度は3.89でした
(※平成26年度の平均在籍は69.5人、平均要介護度4.0でした)

本年度特養の待機者数の減を図ることを目的とし、ショートステイの1日の利用実績が10名であることから、ショートステイの4床を特養へ転床し、平成28年1月より定員74名となりました。

また、本年度施設で穏やかな最期を迎えた（平穏死）方は12名でした。

(※平成26年度看取り9名)

自立に向けた支援として口腔機能の改善を図ったり、車いすや姿勢の見直しを行い身体機能の改善と機能低下させないケアに取り組みました。

専門職（OT、歯科衛生士、管理栄養士、看護師、福祉用具など）によるアプローチとご家族視点や介護職のケアの視点でご利用者本位の自立支援に努めてまいりました。

引き続き次年度も介護・看護・栄養士・調理員等スタッフが一丸となりチーム力を高め、更に職員間のスキルアップを図り、安心ある介護に努めてまいりたいと思います。

2. ショートステイ（短期入所者生活介護事業）定員 16名

※平成28年1月～ 定員12名

平成27年度4月～12月は定員16名に対し1日平均10.0人の実績でした。

平成28年1月～3月は定員12名に対し、1日平均9.68人の実績でした。

(平成26年度は定員16名に対し1日平均12.2人)

平成27年度介護報酬改定により、ショートステイの長期利用は減算対象となることから、利用日数の見直しを図りました。長期利用者が施設入所へ移行したことにより稼働率（62%）はかなり落ち込み、収入減となりました。

前年度まで長期利用者を抱え込み、一定の収入確保をしていたため、4月以降制度見直しによる新規利用者の確保が出来なかったことが大きな要因であります。

稼働率低下を解消すること、特養の待機者数の軽減を図ることを目的に平成28年1月より、ショートステイ4床を特養へ転床しました。定員12床に対し稼働率は80%と回復傾向であります。次年度は稼働率90%を目指します。

3. デイサービスセンター（通所介護）定員25名

平成27年度のデイサービス利用は1日当たり15.2人　日曜平均利用は10人登録者44名

平成26年度の1日平均16,0人　登録者42名

平成25年度の1日平均18,2人　登録者51名

平成24年度の1日平均21,6人　登録者58名

本年度8月以降、従来の預かりデイではなく、専門職の理学療法士によるリハビリディへ展開していきました。

デイサービスに通うことで、身体機能の向上と健康寿命を延ばすことを目的とし対応してきました。しかしながら、ご利用者の意欲向上や身体機能の維持、改善の成果が表れるまでには時間をおきます。

ご利用者の自立支援の目的をしっかりと示しながら計画的に実施し、次年度はさら質の向上を目指していきます。

引き続き、ケアプラン、記録等の整備、専門的、技術的研修を実施しながらサービスの質の向上を図るべき努力を行います。

4. 居宅介護支援事業所（2名体制）

平成27年度介護支援専門員2名体制で事業を行いました。

継続した在宅生活の支援や、家族介護の力量を見ながら施設入所への移行など、地域、医療、各福祉関係団体、行政と連携を図りながら取り組んでまいりました。

特に老老介護、認認介護、虐待といった在宅介護に起こりうる介護の現状に対して、介護支援専門員は適時適切にマネジメントを行うことに留意をした参りました。

本年度も法人内併設事業所の協力体制のもと、各関係事業所、医療機関、地域との連携を図り、地域包括ケアシステムにおける在宅支援を行いました。

引き続き、次年度も介護支援専門員の質の向上（在宅での看取り、認知症ケアの取り組みなど）と、緊急時の対応、苦情への迅速且つ適切な対応の強化を図ります。

5. 訪問介護（ヘルパーステーション）

本年度は登録ヘルパーの子育て支援として、活動中は本城会保育施設に預け、安心して働ける職場環境を作りました。

若いヘルパーも雇用でき、ヘルパー活動を断ることなくサービスに繋げることができました。

次年度も子育て支援と人材確保に力を入れて参ります。

引き続き、訪問介護員の質の向上を目指しては、介護福祉士の資格取得に向け事業所内外の研修参加を計画的に行い、ご利用者の安心のある暮らしの支援サービスの質の向上に努めてまいります。

6. ケアハウス（軽費老人ホーム）定員25名

最高年齢 男性102歳 女性98歳 平均年齢 男性93.3歳 女性85.8歳

本年度4名の退去があり内1名は施設での看取り対象者でした。

稼働率は97%とほぼ順調でしたが、長期入院者も多い年でした。

待機者も少なくなり空室になると、入居者の確保が難しい一年でもありました。

日常生活はほぼ自立の入居者がほとんどですが、高齢に伴い疾病を発症する方、急変する方も多くなり、介護職員の医療的知識の必要性を感じます。

疾病の早期発見と予防、生活リハビリの強化を働きかけながら予防介護に努め、入居者が喜びと輝きを持って過ごしていくよう職員一丸となり自立支援に努めてまいります。

7. 地域密着型特別養護老人ホームひびきの虹色館 定員29名

平成25年6月1日開設

平均年齢 男性85.7歳 女性88.1歳 平均88歳

平均介護度 3.76

月平均在籍人数 28.9人

ご利用者とご家族の意向に沿い看取り介護を行い、穏やかな最期を見届けることが出来ました。

開設時よりスタッフのメンバーも変わらず、職場内研修やユニット会議での学びも活発的になり介護力もついてきました。

基本的な介護について、実践を重ね根拠を学びながら日々研鑽を積みました。

本年度の成果を次年度に繋げ、さらに介護の質を目指し努力していきたいと考えます。

8. グループホームひびきの虹色館 2ユニット 定員18名

平成25年6月1日開設

平均年齢 男性86歳 女性88.7歳 平均年齢 87.3歳

平均介護度 2.3

月平均在籍人数 17.5人

グループホームではじめての看取り介護を行い、穏やかな旅立ちを支援することができました。

定期的に医師の往診があり、訪問看護との連携を図りながら、医療的なケアの介入にもスムースに実施できる体制となりました。

介護の専門職としての知識と実践を重ね、その方を中心とした認知症高齢者のケアを深めてまいりたいと思います。

9. 小規模多機能型居宅介護 ひびきの虹色館 登録定員25名 通い15名 泊9名

平成27年3月末 登録者10名（男性1名女性9名）平均年齢86.4歳

月平均利用回数は21.9回でした。

通いを中心とした小多機は、新規相談はあるも利用には繋がらず苦戦しました。

要因として、利用料金（通い・訪問）は月極め、泊り料金が重なると利用料金が負担金になるためサービスを躊躇するケースがみられました。

また、施設入所が決まりサービス終了は2名でした。

本年度より事業所評価については、小多機の全職員で、自己評価、事業所評価を行い、運営推進会において、報告と意見を取りまとめる方法となりました。

全職員が、評価項目についてできている点、できていない点、またその理由を精査し、地域包括ケアシステムにおいて支援できる体制を見直すことができ、次年度のケア目標に繋ぐことができました。

引き続き次年度も各医療機関、事業所と連携を図りながら在宅支援体制を構築してまいります。

10. 本城会保育施設ピッコリーノ 定員 17名

平成27年度前期は園児が増えず、月1回の内覧会を開催しながら営業を行いました。認可保育所の待機待ち園児がほとんどで、入園が決まることで保育終了となるケースでした。

法人職員は、年末や一時預かりとしてピッコリーノを利用でき、戦力となる職員が介護現場で活躍できる仕組みもできました。

また平成28年2月より園児が増え始め、常勤保育士の雇用を行い体制を強化しました。次年度、安定的な保育運営を目指し、利用料金、形態等を見直し取り組んで参ります。